

令和元年8月28日(水) 教育委員会報告事項についての質疑応答(要旨)

(報告)

ア 令和元年度全国学力・学習状況調査「浜松市の結果(概要)」について

※指導課長から資料に基づき説明。

(渥美委員) 本市の小学校及び中学校の国語の結果が、全国平均よりも良い結果となった理由は。

(指導課長) 今年度から主に知識を問う「A問題」と主に活用の力を問う「B問題」が統合された。これまで、本市の小学校の国語科においては、A問題を解く力が課題で、B問題は比較的良好な結果であった。今年度においても、これまでと同様、基礎を応用する力に本市は強い結果となり、授業の中で話し合いを通して自分の考えをもつなどの授業改善を積極的に行っていることなどが寄与していると思われる。

(渥美委員) (2) 質問紙調査概要①「浜松の目指す子供の姿」に関する質問紙調査結果のうち、「将来の夢や目標を持っている」と回答した子供の割合が全国平均と比べて高い結果となったが、学校ではどのような場面でどのような指導しているのか。

(指導課長) 総合学習の時間などの授業に限らず、一日の生活の様々な場面や年間行事等を通じて、児童・生徒が将来に夢や希望を持つよう働きかけ、指導している。

(渥美委員) (2) の①「浜松の目指す子供の姿」に関する質問紙調査結果にある5つの設問は、ひとつひとつ大事なことであるが、教師が生徒を指導するに際して、指導要領みたいなものはあるか。

(指導課長) それぞれの学校では、学校教育目標や学校経営方針を受けて子供たちが、「浜松の目指す子供の姿」に近づくよう、具現化して取り組んでいる。また、本市が重点的に取り組んでいるキャリア教育の成果であるとも考えている。

(渥美委員) 夢や希望を持つ子供の割合を経年変化で調査し、可視化して検証しているか。

(指導課長) 夢や希望を持つ子供の割合について、1人1人の子供の年齢経過による経年変化は、調査していない(毎年度作成する「教育委員会点検・評価報告書」の中で夢や希望を持つ児童(1・2年、3・4年、5・6年)及び生徒の割合の経年変化の確認している)。

(渥美委員) 意見として、自己肯定感は人間が生きていくうえで最も大切なことだと思う。子供たちの自己肯定感が育まれ、自らを高めるために主体的に行動し、社会の厳しさに立ち向かうことができよう、指導・教育してもらいたい。

(黒柳委員) 意見として、小学校の国語において、文の中で漢字を正しく使うことに課題が見られた、とあるが、我が家では、分からない漢字を安易にタブレット端末で検索するのではなく、辞書を引くようにしている。学校の現場でも辞書を引くような機会を取り入れて欲しい。

(田中委員) 意見等として、3点ある。1点目は、国語はすべての教科の基礎となる最も大切な科目と思うので、今後も力を入れて欲しい。2点目は、地域や社会をよくするための具体的に何をすべきか考える機会については、学校だけでなく家庭でも力を入れて醸成できるように取り組んでいきたい。3点目は、漢字を文の中で正しく使うことについては、日々の書き取りのようなルーティンの宿題からやり方を見直すなどの取り組みを行って欲しい。

(鈴木委員) 2ページの「浜松の目指す子供の姿」に関する質問紙調査結果のうち、本市が全国と比較して低いところはどこか。

(指導課長) 目立って低い設問は無いが、外部講師の校内研修への導入に関する設問が若干低いものとなった。

(渥美委員) 中学校の英語において、聞いた内容に対して自分の意見や考えを書くことに課題が見られたとある。5ページの設問4の正解率は7%とあるが、こちらの問題に部分点はあるのか。

(指導課長) 部分点はない。質問に対して、大きな文法の誤りがなく、相手方の質問に答えることが出来た場合は正解としている。正答率が低い要因として、無回答率が4割以上であることを踏まえ、聞くことが出来ていないことも考えられる。

(渥美委員) 意見として、英語は、漢字のように文字に意味はなく、日本語と大きく異なる。正答率が7%しかないのは、設問そのものに問題があると思うので、もう少しやり方を工夫した方が良いと思う。

(教育長) まとめとして、毎年度、教育委員会点検・評価報告書において、キャリア教育の現況等を確認している。今年度作成する「はままつ人づくり未来プラン(後期計画)」では、現況をしっかりと踏まえ作成して欲しい。